

## 障害者基礎調査結果の概要

項 目	課 題 等
1 介助・援助の状況について	
① 主な介助者・援助者	知的障害の 74.6%、精神障害者の 31.5%が、父母の介助を受けている。
② 介助を受けている場面	3 障害ともに、外出、家事、金銭管理が上位にあげられている。
③ 介助・援助者不在時の対応	3 障害ともに、ホームヘルプ、ショートステイの利用が上位にあげられている。
④ 必要とする手助け（介助・援助）を受けられているか	身体障害の 8.4%、知的障害の 12.9%、精神障害の 18.0%が「必要だが受けられていない手助けがある」と答えている。
2 日中の過ごし方について	
① 日中の過ごし方（場所）	身体障害（18～64 歳）の 44.6%、精神障害の 49.2%が、「日中自宅で過ごす」としている。
3 教育について	
① 通園・通学先	身体障害の 50.9%が特別支援学校・学級に通学し、28.3%が通常の学級に通学している。 知的障害の 85.6%が特別支援学校・学級に通学している。
② 通園・通学に際し充実して欲しいこと	身体・知的障害ともに、「施設設備の充実」、「先生・生徒の理解が深まって欲しい」、「通学手段の改善」が上位にあげられている。 また、知的障害の半数以上が「放課後・夏休みの取り組みの充実」をあげている。
4 雇用・就労について	
① 雇用形態	知的障害の 49.6%、精神障害の 52.7%が就労先として「福祉作業所（共同作業所）など」をあげている。
② 職場の所在地	3 障害ともに、練馬区内に一般就労している方は 20%台となっている。
③ 1 年間の就労収入	福祉作業所（共同作業所）などで働く人の 1 年間の就労収入は、身体障害、精神障害が「5 万円未満」、知的障害が「5 万円～20 万円未満」が最も多い。

④ 仕事をする上での不安や不満	3障害ともに「収入が少ない」が最も多い。 また、知的障害、精神障害では「職場の人間関係が難しい」も上位に上がっている。
⑤ 今後の就労意向	「現在働いていないが、今後働きたい」と思う人の割合は、身体障害の9.2%、知的障害の20.9%、精神障害の23.3%となっている。
⑥ 働いてみたいと思う仕事の形態	身体障害の26.9%、知的障害の35.5%、精神障害の46.7%が一般就労を希望している。
⑦ 働きたいが働けないと思う理由	「体調や人間関係」、「障害理解の不足」などの不安から、働けないという声が上がられている。
⑧ 働くために整っていることが大切だと思う環境	身体障害と精神障害では「健康状態に合わせた働き方ができること」(43.0%、57.6%)が最も多く、知的障害では「職場の障害理解」(48.0%)が最も多い。
5 外出や社会参加の状況	
① 外出頻度	「月に2~3回」あるいは「ほとんど外出しない」人は、身体障害で14.9%、知的障害で6.9%、精神障害で11.0%となっている。
② 外出の際に困っていること	身体障害では「歩道が狭く、道路に段差が多い」(26.6%)、知的障害では「まわりの人と話すのが難しい」(30.9%)、精神障害では「他人の視線が気になる」(28.0%)が最も多くなっている。
③ 最近の活動状況	3障害ともに「買物」「旅行」が上位を占めている。
④ 今後の活動意向	3障害ともに「買物」「旅行」が上位を占めているほか、知的障害では「スポーツやレクリエーション」(42.6%)が上位にあがっている。
⑤ 最近の活動状況と今後の活動意向の比較	活動状況と今後の活動意向を比較すると、3障害ともに「趣味などのサークル活動」が上位にあがっている。
⑥ 活動に参加するために必要な支援	身体障害では「障害のある人に配慮した施設や設備があること」が最も多いほか、3障害ともに、「活動する場所が近くにある」、「介助者・援助者がいる」、「仲間がいる」が上位に上げられている。
⑦ 近所とのつきあいの状況	3障害ともに7~8割程度の方は、一定程度の近所とのつきあいがある。

6 健康状態や医療について	
① 健康診断の受診状況	身体障害の 70.7%、知的障害の 83.7%、精神障害の 57.6%が、過去 1 年間に健康診断を受けている。
② 健康診断の未受診理由	現在通院中のほか、「本人が嫌がる」、「体調が予測できず、受診日を特定できない」といった理由があげられている。
③ 健康管理・医療について困ったことや不便なこと	身体障害、精神障害では「医療費の負担が大きい」が最も多いほか、3 障害ともに「症状が正確に伝わらず必要な治療が受けられない」、「受診手続など、障害のある人への配慮が不十分」が上位にあがっている。
7 相談や情報入手について	
① 悩みごとや心配ごとの相談先	身体障害では「友人・知人」(23.3%)、知的障害では「福祉施設の職員」(26.0%)、精神障害では「病院・診療所」(46.0%) が最も多くなっている。
② 家族・親戚以外に相談するために必要な相談体制	「相談からサービス利用、就労支援までのトータルコーディネーターの存在」、「身近な場所、専門的な、いつでも相談できること」などがあげられている。
③ 障害福祉サービスなどの情報の入手先	3 障害ともに「ねりま区報」、「総合福祉事務所・保健相談所」、「病院」などが上位にあがっている。
④ 障害福祉サービスの情報提供充実で区がすべきこと	「区報の充実」、「ホームページの充実」、「個別の情報周知」、「わかりやすい手引き」、「福祉サービス説明会」などがあげられている。
8 障害福祉サービスについて	
① 最近 1 年間に利用したサービス	身体障害と知的障害では「タクシー料金助成等」が最も多く、その他身体障害では「訪問系サービス」、知的障害では「日中活動系サービス」があげられている。 精神障害では、病院や診療所のデイケアが最も多く、また「障害者地域生活支援センター」が上位にあがっている。
② 今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思うサービス	3 障害ともに、上位に上げられているサービスは、現に利用しているものと変わらない。
③ 最近 1 年間のサービス利用状況と利用意向	3 障害ともに、各サービスの今後の利用意向が、現況を上回っている。

④ 必要だと思うサービスを十分利用できていない理由	3 障害ともに「どのようなサービスがあるかわからない」、「利用の仕方がわからない」が上位に上がっている。
⑤ サービスを利用しやすくするために必要なこと	「区報の充実」、「手続の簡素化」、「相談窓口の充実」、「サービス従事者の質の向上」などが上げられている。
9 将来について	
① 今後の日中の過ごし方について	身体障害（18～64 歳）と精神障害では「自宅で過ごしたい」（36.2%、46.6%）が最も多いが、「一般就労の希望」も 20%を越えている。知的障害では「通所施設」（26.6%）と最も多くなっている。
② 将来暮らしたい場所	3 障害ともに「家族と一緒に暮らしたい」が最も多くなっている。 次いで、知的障害では「グループホーム」（13.4%）、精神障害者では「ひとりで暮らしたい」（24.8%）が多い。
③ 練馬区の居住継続意向	練馬区の居住継続意向は、身体障害者が 76.1%、知的障害者が 72.3%、精神障害者が 66.2%となっている。
10 災害対策や消費者被害について	
① 災害時の避難場所の認知状況	災害時の避難場所を知っている人の割合は、身体障害で 67.6%、知的障害で 54.3%、精神障害で 50.5%となっている。
② 避難場所まで自力避難の可能性	避難場所まで自力で避難できない人は、身体障害で 39.1%、知的障害で 42.6%、精神障害で 20.4%となっている。
③ 災害に備えて必要と思う対策	3 障害ともに「避難しやすい避難場所を整備する」、「地域で助け合える体制を整備する」、「避難方法のアドバイスや情報提供」が上位にあがっている。
④ 消費者被害等の経験	消費者被害にあった・あいそうになった経験は、身体障害 14.5%、知的障害 7.4%、精神障害 30.9%となっている。
⑤ 被害の相談先	3 障害ともに「相談はしなかった」が 2～3 割となっている。

1 1 差別や人権侵害について	
① 差別や人権侵害を受けていることの有無	差別や人権侵害を受けていると感じる割合は、身体障害で 23.7%、知的障害で 55.1%、精神障害で 52.1% となっている。
② 差別や人権侵害を受けていると感じるとき	「障害への理解を得られない」、「仕事や旅行に参加を制限された」、「周囲から疎外される」、「不審者扱いされた」などがあがっている。
③ 地域で障害に対する理解を得られていると感じるか	「理解を十分得られていると感じる」は、身体障害で 17.7%、知的障害で 10.9%、精神障害で 8.7%にとどまっている。
④ 地域で理解を得られていると感じるとき	「障害を思いやる声をかけてくれる」、「障害に配慮した対応をしてくれる」、「普通に接してくれる」などがあがっている。
⑤ 地域で理解を得られていないと感じるとき	「障害の大変さが理解されない」、「周囲とコミュニケーションが取れない」、「社会参加が制限される」、「迷惑そうな視線等を受ける」などがあげられている。
1 2 障害者施策全般について	
① 区に充実して欲しい施策	3 障害ともに、「福祉のまちづくりの推進」、「情報提供の充実」、「働く場や働くための支援の充実」が上位に上がっている。
1 3 介護・援助者の意向	
① 介助・援助するにあたって困っていること	3 障害ともに、「年齢的負担」、「精神的負担」、「体力的負担」、「長期的外出ができない」が上位にあがっている。
② 将来、本人に暮らして欲しい場所	3 障害ともに「現在の家族と一緒に暮らして欲しい」が最も多いが、知的障害では「グループホーム」(23.4%) が次いで多くなっている。
③ 地域で暮らすことの可能性（施設入所者）	「条件を整えば可能」が 34.0% となっている。
④ 地域で暮らすための支援や環境（施設入所者）	「障害者向け公営住宅、グループホームなどの住宅の充実」、「介助者がいること」、「地域住民に障害理解があること」などが上位にあがっている。

⑤ 介助・援助者の意向	「相談支援を充実して欲しい」、「障害種別に応じたサービスを充実して欲しい」、「社会全体で障害者を見守る環境を作って欲しい」、「家族支援を充実して欲しい」などがあがっている。
-------------	--